

# Hem21

## NEWS

公益財団法人  
ひょうご震災記念21世紀研究機構  
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である  
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **22** 平成22年  
(2010) 7月

### CONTENTS

- ①～② 平成22年度  
研究体制とミッション
- ③～④ こころのケアセンター相談室  
地域支援活動の紹介
- ⑤～⑦ 人と防災未来センターニュース  
MiRAi
- ⑧ 情報ひろば

管理部

研究調査本部

人と防災未来センター

こころのケアセンター

学術交流センター

## 平成22年度 研究体制とミッション

当機構の平成22年度研究体制をご紹介します。研究調査本部では、機構のミッションを果たすために、「安全安心なまちづくり」と「共生社会の実現」という基本課題を研究テーマの視点として持ちつつ、研究調査の推進を図っていきます。

### 【重点研究分野】

#### 1 地域の安全安心

阪神・淡路大震災から得た教訓を生かした災害時対応のあり方、分権型の危機管理システムの構築を研究し、効率・利便性から安全・安心を基本的価値とする社会の仕組みづくり方を明らかにします。

#### 2 長寿国につぼん活性化

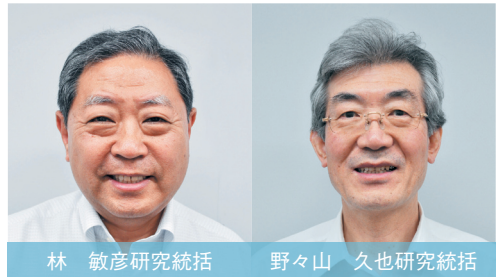
いま国民は少子高齢化が進む将来の生活設計に大きな不安を感じています。一方で、わが国は、国際的にみても健やかな長寿社会を構築する余地が十分ある、と考えられます。

兵庫県はその地域の多様性から「日本の縮図」ともいわれますが、少子高齢化した成熟都市を直撃した阪神・淡路大震災から十年余、あるべき地域福祉のあり方を模索してきた被災地兵庫県から地方発信の高福祉社会構築の制度設計を考えます。

#### 3 国際社会への貢献

震災後15年が経過し、当機構が取り組んできた震災の教訓を内外に発信する機会が到来しています。被災後HAT神戸に設置され、DRA協議会という

連携の中で活動を進めている、防災・減災、人道支援、環境問題、健康医療等に係る国際的な広がりを持った諸機関の有する優れた機能を生かしながら、  
①国際的な人材、資金・知識、技術等の支援体制づくりを検討し、兵庫の地としての新しい協力の仕組みを提言することや、  
②自然災害に対して緊急対応、復旧・復興、被害軽減対策、法制度の整備等について検討を行い、わが国が国際平和協力国家として歩んでいくための方策について研究を進めます。



林 敏彦 研究統括

野々山 久也 研究統括

### 【研究テーマと担当研究員】

#### 1 地域の安全安心

「安全安心社会の研究」

—「安全指標」と「信頼指標」の開発—

林 万平 常勤研究員

安藤 文暁 特別研究員

震災から15年が経過し、創造的復興への取り組みを進める兵庫県をフィールドにこれまでの研究実績をもとに安全性を評価する指標づくりと、指数向上に資する政策の分析評価を行う。



林 万平

安藤 文暁

山崎 亮

「ストック活用型地域総合交通政策のあり方」

林 万平 常勤研究員

阪神・淡路大震災の経験を踏まえ、高齢化、地域的な人口偏在、産業構造の変化などの新しい社会経済情勢に対応する持続可能で安全を確保した地域を形成するため、多核ネットワーク型の国土形成に向けた総合的交通政策について検討する。

「上下流連携による流域マネジメント」

—森-里-川-街-海をつなぐ流域の空間マネジメント—

山崎 亮 非常勤主任研究員

防災、治水・利水、環境保全、低炭素社会の実現、種の多様性の確保、中山間地域と都市域との連携等を目的とする。河川流域の空間管理には広域的、統合的視点が必要である。しかし、流域マネジメントの多くは実効が上がらないまま、地域空間の劣化が進みつつある。そこで、多自然居住地域と都市とが連携したネットワーク型の流域マネジメントの方策を研究する。

## 2 長寿国につぼん活性化

### 「福祉社会実現のための新しい公共セクターの構築」

—公と私を架橋するインキュベーション事業の分析—

久保田 裕之 非常勤研究員

齋藤 華織 特別研究員

震災が「ボランティア元年」ともいわれるわが国において、復旧・復興のプロセスにおいても「共生」「協働」の重要性があらためて認識された。少子高齢化が急速に進む中、共同的な市民参加によって福祉社会を支える「新しい公共セクター」の形成が期待されている。行政と市民、企業と家族をつなぐインキュベーション事業に着目しつつ、その構想と実現への道筋を明らかにする。

### 「医療・福祉産業の活性化によるまちづくり戦略」

—福祉産業のコンビニ化—

桜井 靖久 非常勤主任研究員

高齢社会を直撃した震災からの復興を進め、にぎわいを取り戻す上からも、産業振興、雇用機会の拡大は欠かせない。医療・福祉産業は雇用吸収力および国民ニーズの充足の視点から、高齢社会の日本にあって成長産業と目されている。また、地域経済への経済効果も非常に高い産業である。しかし、医療・福祉産業の範囲は必ずしも明確ではない。そこでこの研究においては、医療・福祉産業の実態を正確に把握し、既存の産業連関を修正する形で、調査・分析を行う。

### 「女性・高齢者の就労支援と家庭支援及び雇用の創出」

—地域における就労機会の増大戦略—

阿部 真大 非常勤主任研究員

少子高齢化が進む中、女性・高齢者の就労支援について、コミュニティの再生、共生社会を実現していく観点から、そのあり方を研究する。

(1)女性の就労支援の問題は、同時に、家庭支援の問題でもある。介護や育児など、従来は家族内の再生産労働と位置づけられていた労働を社会化し、女性の負担を軽減しなくては、彼女らの就労も不可能だろう。そのための地域における

効果的な家庭支援のあり方を探る。

- (2)高齢者の就労支援の問題は、高齢者を就労させる側、つまり労働需要側の問題も大きい。つまり、高齢者が地域の中で無理なく働くことのできるような職場をつくっていくことが必要となってくる。それは、地域社会における雇用創出の問題である。福祉産業の将来的な姿を見据えつつ、そこでの就業機会の増大がいかんにして可能かを探る。
- (3)(1)、(2)ともに、県の就労支援関係の部局、シルバー人材センターなどと緊密に連携をとりつつ、現状分析と実現可能な政策提言を行っていく。
- (4)最終的には、女性・高齢者の就労支援、家庭支援とその前提となる地域社会における雇用創出のあり方についてのグランドデザインを描き、そこに企業が、行政がいかんにして関与していくことができるのか、明らかにする。

### 「長寿社会における高齢者の介護・医療システムの適正化戦略」

大床 太郎 非常勤主任研究員

高齢者が安心して生き生きと生活する上で不可欠となる介護・医療システムに係る4つの課題解決を模索する。

- (1)介護の担い手の確保対策として、家族介護者に対する支援策が求められている。そのための家族介護者に対する支援の必要性と支援のあり方を探る。
- (2)在宅・施設などの公的介護サービスと家族の介護負担を相対的に捉え、行政と地域連携の役割を検討する。
- (3)行政区での介護に係る取り組み方と、民間の人々のつながりが果たしうる機能に関して、ベストプラクティスとなりうる方策を考察する。
- (4)超高齢化社会に対応した介護制度が、医療制度と両立しうる形は何かを模索する。

以上4つの課題検討を通じて、制度の継続性に配慮しながら、既存の介護システムの抱える問題点と解決策を検討する。兵庫県下の介護に係る意識を中心に、広く実行可能性があり、他テーマとも両立しうる知見を政策提言として提供する。

## 3 国際社会への貢献

### 「災害対策をめぐる国際協力の仕組みづくり」

穂原 雅人 非常勤主任研究員

被災後HAT神戸に設置され、DRA協議会としての連携の中で活動を進めている防災・減災、人道支援、環境問題、健康医療等に係る国際的な広がりを持った諸機関の有する優れた機能を、日本の国際平和協力国家としての役割に役立たせる方策について、次の4つの視点を中心とした分析を行い、具

体的な提言を行う。

- (1)HAT神戸に集積した人的、組織的、技術的資源の把握。
- (2)自然災害に対する緊急対応、復旧・復興、被害軽減対策、法制度の整備等への協力の実績。
- (3)国内諸政府機関および国連、世銀、国際的研究機関との連携のあり方。
- (4)HAT神戸に設置すべき新たな機能に関する提言。

### 【文部科学省科学研究費補助金】

《基盤B》

「介護保険補完システムの構築に関する理論的・実証的研究」

足立 正樹 上級研究員、村上 寿来 特別研究員、張 帆 特別研究員、中林 宜子 特別研究員



久保田 裕之



齋藤 華織



桜井 靖久



阿部 真大



大床 太郎



穂原 雅人



## 地域支援活動の紹介

こころのケアセンター相談室では、日常的に実施しているトラウマ(こころの傷)・PTSD(外傷後ストレス障害)等「こころのケア」に関する専門的相談と、今回ご紹介する地域支援活動を主に実施しています。

災害や事件・事故等の発生時には、「こころのケア」についての緊急的・集中的な対応が必要となってきます。当センターでは、地域からの「こころのケア」についての支援要請に対し、体制整備についての助言をはじめ、こころのケアチームの編成・派遣をし、現地での直接支援活動を行っています。

昨年度の災害支援としては、20年度から継続している中国四川大地震復興支援こころのケア人材育成プロジェクトとして精神科医師・臨床心理士を中心に2回の現地セミナーの開催を含めた活動を行いました。今後も25年度まで(事業期間21~25年度)、復興支援活動として継続していくこととしています。

また、国内では兵庫県内で昨年8月に発生した台風9号災害に伴う、佐用町・宍粟市での被災者のケア(家庭訪問、こころのケア相談室の開設、健康調査によるニーズ把握等)、支援者のケアおよびケア体制整備などについて現地派遣23回を含む延べ30回の地域支援を実施しました。時間の経過とともに、表面上は災害の痕跡は見えにくくも、経済面、生活変化、被害程度等により精神的不調が継続す



台風9号災害被災地の様子

る被災者もあり、今年度も引き続き、健康調査の実施、家庭訪問、こころのケア相談等による支援を行います。

食品工場で発生した火災事故に対しては、ケア体制整備、個別面接による心理状況の把握と心理教育の実施等39回の支援を行いました。

平成21年度の支援回数の合計は130回、延べ支援人数2,089人に対して実施しました。

今後も、これまでに積み重ねた活動を基に、災害や事件・事故等の発生時の支援活動に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

### 主な活動実績

- 新潟県豪雨災害
- 福井県豪雨災害
- 平成16年台風23号災害(但馬・淡路)
- 新潟県中越地震災害
- スマトラ島沖地震による津波災害(インドネシア)
- JR福知山線脱線事故



訪問活動後のスタッフミーティング

# 災害・被害時に起こる心理的影響と回復のためにできること

## こころも「ケガ」をします

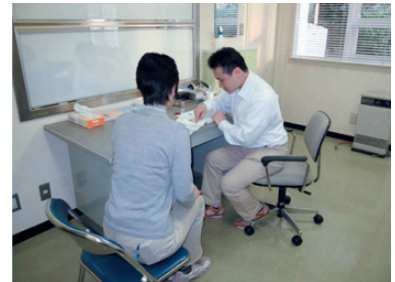
災害や事故・事件などに巻き込まれると、そのショックで、こころは大きな「ケガ」をすることがあります。こころがケガをすると、いろいろなことが起こります。

些細なことでイライラする、夜眠れない、その時の光景が何度も思い浮かぶ、誰とも話す気持ちにならない、何もする気になれない…などなど、これまで感じたことのない気持ちの変化やからだの不調が起こることがあります。それらは多くの人が普通に経験するもので、決して特別なものではありません。

このような精神的影響を「トラウマ(心的外傷)反応」といいます。

## こころとからだの健康を保つために

- ちょっと一休み—全力で頑張りすぎないで、定期的に休みましょう。
- 気持ちを言葉にしてみましょう。
- 回復の早さは人それぞれ違います。せかさないで見守ってあげましょう。
- 専門家に相談してみましょう。身近な人にさえ打ち明けられない気持ちでも、専門家ならじっくり聞いてくれるはずです。ためらわず相談してみましょう。



こころのケア相談室での相談の様子

## NEWS

特定非営利活動法人「汎太平洋フォーラム」(合田清理事長)は、このほど開かれた総会で任期満了に伴う役員改選を行い、執行部体制強化のため副理事長の欠員補充と増員の方針を決めました。主な新役員は次の通りです。

理事 長 合田 清(神戸学院大学名誉教授)一留任

副理事長 宮崎秀紀(兵庫教育大学監事)一留任

梶原苗美(神戸女子大学健康福祉学部長・教授)一新任

崎山昌廣(ひょうご震災記念21世紀研究機構・兵庫県国際交流協会顧問)一新任

総会后、恒例の「学長公開講座」では、福田秀樹神戸大学長の「バイオ燃料の生産技術の革新」の特別講演がありました。

※(特活)汎太平洋フォーラムは、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構が支援しているNPO法人で、県内大学研究者の学際的組織です。

## HAT神戸 掲示板

### 兵庫県立美術館

#### 特別展 水木しげる・妖怪図鑑

漫画家・水木しげるの画業60周年を記念し、巨匠が描き続けた妖怪の世界を原画やブロンズ像などで総合的に紹介すると同時に、過去の美術作品を併せて展示。私たちの想像力を無限に刺激し続ける妖怪という存在に考察を加えます。



《妖怪大決戦》 1986年 ©水木プロダクション

- 会期=7月31日(土)~10月3日(日)
- 観覧料=一般1,300(1,100)円、大学生900(700)円、高校生・65歳以上650(550)円、中学生以下は無料
- ※( )は前売りおよび20人以上の団体割引料金(高校生・65歳以上は前売りなし)
- ◎ 休館日=月曜(祝日の場合は翌日)
- ◎ 開館時間=10時~18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)
- ※ 入場は閉館の30分前まで
- TEL 078-262-0901 <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

### JICA兵庫

- ☆ アクセスは <http://www.jica.go.jp/hyogo/office/access.html>
- ☆ イベントの詳細は <http://www.jica.go.jp/hyogo/event/index.html>

- ◆ 青年海外協力隊体験談「パレスチナの希望の光たちと共に」
- シリアにあるパレスチナ難民キャンプで活動した2年間を振り返り、元青年海外協力隊員がパレスチナ難民の置かれている現状と問題への取り組みについて語ります。
- 日時=7月31日(土) 13時30分~15時

- 講師=佐武 奈津子氏(さたけなつこ)
- 【派遣国:シリア・アラブ共和国 / 職種:音楽】
- ※ 詳細は、JICA兵庫ホームページのイベント情報をご覧ください。

#### ◆ JICAプラザ兵庫(食堂)のご案内

1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでも利用できます。大好評の月替りエスニック料理(ドリンク付き700円)は、8月はマレーシア独立記念日(8月31日)にちなんでマレーシア料理、9月はチリ独立200周年(9月18日)にちなんでチリ料理です。ほかに、イスラム教徒のためのハラール食、日替りの和食も用意しています。完全禁煙で、安心して料理を楽しめます。お子様連れ歓迎!子供椅子を6脚用意しています。ぜひ、お越しください!

- ☆ メニューの詳細と写真→ <http://www.jica.go.jp/hyogo/office/restaurant/index.html>
- 営業時間=昼:11時30分~14時 夜:17時30分~21時
- ※ 各終了30分前ラストオーダー

#### ◆ 広報展示室のご案内

JICA事業紹介から始まり、そこから見える世界の文化や諸問題をテーマにパネルや映像を展示しています。その他にも国際協力に関するさまざまな「見て、触って、体験できる」展示がいっぱいです。7月は「難民 故郷を離れて生きる人々」をテーマに、世界の過酷な現状と難民問題への取り組みについて紹介。8月は「着て!見て!さわって!世界と遊ぼう!」で、おもちゃ、楽器、民族衣装などを通じて世界を紹介します。さわって遊んだり、試着できる体験コーナーもあります!

- 【主要展示物】
- ▶ 世界で活躍する兵庫県出身のJICAボランティア
- ▶ 兵庫で学ぶ研修員の紹介 ▶ 市民参加メニューあれこれ
- 開室時間=11時~18時
- ☆ JICAプラザ兵庫の詳細→ <http://www.jica.go.jp/hyogo/office/plaza.html>
- 問い合わせ
- JICA兵庫JICAプラザ兵庫担当
- TEL 078-261-0341(代表) Eメール [jicahic-plaza@jica.go.jp](mailto:jicahic-plaza@jica.go.jp)



## 平成22年度 災害対策専門研修「トップフォーラムin長野」を開催

人と防災未来センターでは、地方自治体の首長を対象とした災害対策専門研修「トップフォーラム」を開催しています。

この研修は、最新の研究成果による知見等を基に、今後突発的に発生する大災害時に地方自治体のトップに求められる対応、リーダーシップなどについて、講義・演習を通じて学ぶものです。

平成14年度から毎年開催していますが、21年度は、香川県、三重県、埼玉県、熊本県、和歌山県の5県に赴き、共催県と協力しながら、カリキュラムの設計や研修の運営を行いました。

今年度は、5月28日に長野県長野市で最初の「トップフォーラム」を開催しました。

まず、今後、大規模地震や風水害などが発生した場合に、住民に対する避難勧告・指示などの重要な責務を担う県下の市町村長等に対して、河田センター長による「長野県における自然災害とその対応」と題する講義、続いて、センター研究員等による「災害時の首長の行動と必要とされる役割」、「能動的な広報とは」の講義を行いました。

次に、架空の都市で地震被害があったことを想定して、参加した33人の市町村長が活発にグループ討議を行い、災害対策本部長としての課題、方針決定や記者発表の手法等について実践的な演習を行いました。

今年度は、さらに兵庫県、宮城県、長崎県での開催を予定しています。

今後も、共催いただける自治体(主に都道府県)を募り、この事業を全国に発信していきたいと考えています。



河田センター長による「長野県における自然災害とその対応」の講義



県内の市町村長の参加による演習風景

## 平成22年度春期 災害対策専門研修マネジメントコースの実施結果

人と防災未来センターでは、地方自治体職員などを対象とした「災害対策専門研修」マネジメントコースを平成14年度から実施しています。当該コースは、災害対策実務の中核を担う人材の育成を目的とし、阪神・淡路大震災の教訓を学習することを重点としつつ、最新の研究成果も取り入れ、能力に応じた体系的、実践的なカリキュラムに設計されています。これまでに、延べ3,000人以上の方々が受講され、全国の自治体等から高い評価を得ています。

今年度も引き続きクオリティーの向上を目指し、これまでの受講者の要望等を踏まえ、一部のコースに被災現地の視察を採り入れ、また参加の利便性を考慮した時間設定とする等カリキュラムの一部を見直しました。こうしたことから、近年、ベーシック、エキスパートA・B等の各コースとも、応募が増加傾向にあり、今回も定員を大きく上回りました。当該研修への社会的なニーズはますます高まっています。

受講者については、近畿地方を中心に、北は北海道から南は熊本県まで全国各地から参加があり、さらに毎年職員が参加される“リピーター団体”も着実に増えています。

研修後のアンケートにおいても、「カリキュラム構成が秀逸」「災害対応の引き出しが増え、実践力が身に付いた」、「全国各地の自治体職員との交流は大きな成果」等好評を博しています。今期もまた防災消防担当者等の全国的なネットワークを一層強固に構築できました。

コース名	日程	参加人数
エキスパートB	平成22年6月 1日(火)～6月 4日(金)	23人
エキスパートA	平成22年6月 8日(火)～6月11日(金)	26人
ベーシック	平成22年6月15日(火)～6月18日(金)	61人
合計(延べ)		110人

なお、秋期(10月)については、エキスパートA、エキスパートBおよびアドバンスト・防災監／危機管理監の3コースを予定しています。



被災現地での「都市の復興概論」講義風景



「市民社会ワークショップ」演習風景

管理  
部  
  
研  
究  
調  
査  
本  
部  
  
人  
と  
防  
災  
未  
来  
セ  
ン  
タ  
ー  
  
こ  
こ  
ろ  
の  
ケ  
ア  
セ  
ン  
タ  
ー  
  
学  
術  
交  
流  
セ  
ン  
タ  
ー



## TOPICS

### ●株式会社アシックスからの寄付贈呈

神戸に本社を置く株式会社アシックスは、震災15周年を迎えた平成22年1月17日、震災からよみがえった不死鳥をモチーフにしたシューズを世界150足限定で販売しました。このたび同社から、震災からの復興を願う気持ちと、国内外から受けた支援に対する感謝の気持ちを込め、シューズの売り上げの一部、約127万円が公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構に寄付されました。

この寄付金は世界中の地震災害による被害を軽減するための研究に役立てられています。

併せて、当該シューズ1足も寄贈され、人と防災未来センター西館3階に展示されています。



寄贈されたシューズ



貝原理事長と㈱アシックス土方執行役員



企画展示のメンテナンス作業

### ●平成22年度トライやる・ウィーク

トライやる・ウィークの一環として、平成22年6月8日から11日までの4日間、神戸市立歌敷山中学校2年生の生徒5人が、センターにて来館者対応や展示のメンテナンス、資料室業務、事業部の事務等を体験しました。

生徒たちは、展示では来館者の誘導状況をレシーバーで報告したり、運営ボランティアからいろいろな話を聞くなどこれまでにない体験をし、また、事務所等で来館者の目に触れない部分での仕事もあることを学び、生き生きと実習を行っていました。

### ●人と防災未来センター友の会 総会および施設見学会

平成22年6月14日、「人と防災未来センター友の会」総会がセンターにて開催され、22年度の活動方針等について議論が交わされました。

総会終了後には三木市の広域防災センターと実大三次元震動破壊実験施設(E-ディフェンス)を視察する見学会が実施されました。災害時のための備蓄倉庫や、E-ディフェンスの震動台などを見学しました。



総会の様子



備蓄倉庫の見学



救助訓練施設の見学



震動台についての説明

#### 友の会では現在会員募集中です

入会のお問い合わせは人と防災未来センター普及課(TEL.078-262-5060)までお願いします。

### ●六甲山の災害展

平成22年6月15日から27日まで、西館1階ロビーにて「六甲山の災害展」が開催されました。

急峻な地形に加え、風化した花崗岩からなる脆弱な地質であるため、これまで度重なる土砂災害が発生している六甲山系。その災害の歴史のパネル展示や、土石流のモデル実験をはじめとする降雨災害の実演を通して、土砂災害に関する知識および警戒・避難をはじめとする防災意識の向上を図りました。



土石流のモデル実験の様子

主催：兵庫県 治山課・六甲治山事務所

共催：(社)兵庫県治山林道協会・人と防災未来センター



**推薦図書**

**TSUNAMI 津波から生き延びるために**

財団法人 沿岸技術研究センター「TSUNAMI」出版編集委員会 編  
丸善プラネット株式会社

本書は、2004年インド洋大津波の後、津波から一人でも生き延びてもらいたいという思いで、河田センター長をはじめ、日本の津波や防災の研究者などが執筆したお薦めの一冊です。日本の三陸海岸や奥尻島の津波被害などのカラー写真や実例をたくさん用いて、津波の特性や対処方法を分かりやすく紹介しています。また、海外へ広く発信するために英語とインドネシア語にも翻訳されており、それらは平成21年度土木学会出版文化賞を受賞するなど、学会からも高く評価されています。今後、東南海・南海地震津波などが懸念される中、一人でも多くの方々に読んでいただきたい一冊です。

(文責)主任研究員 奥村与志弘



**平成22年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」募集中です**

阪神・淡路大震災から16年目を迎え、被災地においても、中学生までが大震災を経験していないなど、教訓や経験の次世代への伝承が重要となってきています。そこで、大自然の脅威や生命の尊さ、共生の大切さを考える「防災教育」を推進し、未来に向け安全で安心な社会をつくるため、学校や地域において、児童・生徒等が主体的に取り組む「防災教育」に関する先進的な活動を表彰する、1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」を実施することとし、全国から候補を募集しています。

**対象部門**

- ①小学校部門、②中学校部門、③高校生部門、④大学生部門
- 応募は、学校、クラス、サークル等のグループ単位(他薦も可)

**賞**

- ア ぼうさい大賞各部門1点(賞金20万円)
- イ グランプリぼうさい大賞の中から1点(賞金40万円)
- ウ 優秀賞各部門1点
- エ 奨励賞各部門数点
- オ だいじょうぶ賞数点
- カ はばタン賞数点

**応募締切**

平成22年9月30日(木) (消印有効)

**応募先**

〒530-8251(住所不要) 毎日新聞大阪本社内 ぼうさい甲子園事務局  
電話06-6345-1551(代) ファックス06-6346-8163

**応募用紙**

毎日新聞社のホームページ(<http://www.mainichi.co.jp/event/edu/bousai/>)からダウンロードできます。

**主催** 兵庫県、毎日新聞社、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構



詳細はモバイルサイトでもご覧いただけます

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

**阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター**

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

**開館時間**

- 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
- ※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
- ※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

**入館料金**

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※( )は20人以上の団体料金  
※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

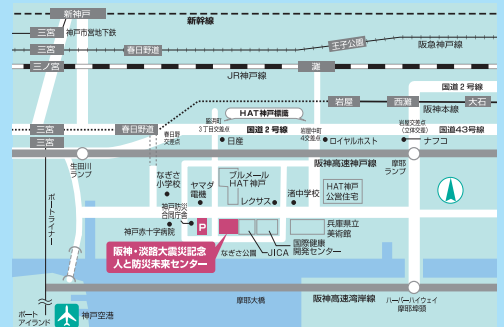
**休館日**

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日  
※ゴールデンウィーク期間中(4月28日から5月5日まで)は無休  
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

**交通**

- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
  - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
  - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅前から約15分
- 車**
- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
  - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
  - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

- 有料駐車場(普通車100台)
- バス待機所(予約制/無料)あり



# 情報ひろば

## 学術交流センター

### 平成22年度「ひょうご講座2010」 (ひょうご講座、オープンカレッジ)の 秋期受講者募集について

#### 1. 特徴

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構では、県内の大学や研究機関など兵庫にゆかりのある知的機関の協力を得、時代の潮流を捉え、県民の学習ニーズに応えることのできる大学教養レベルの生涯学習講座として『ひょうご講座2010(ひょうご講座、オープンカレッジ)』を開催します。

昨年の受講生のアンケート結果では、約82%の方が「満足」、「ほぼ満足」と回答され、また、約91%の方が今後も「是非参加したい」「できれば参加したい」と回答されるなど大変好評を博しています。

今年も、「21世紀の宇宙」、「観光都市神戸」、「歴史・文学」、「生命科学」、「高齢者保障」といった多彩なジャンルからなる魅力的な「高度な知の講座」を開講します。

#### 2. 主催

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

#### 3. 募集期間

各開講日の1週間前まで、ただし、先着順に受け付け、定員になり次第締め切ります。

#### 4. 概要等

(1)ひょうご講座

県内の大学や研究機関をはじめとする多彩な講師陣による講義(独自科目)および県内各大学主催による出前の公開講座(学外科目)です。

▶時間＝平日(火・水・金)18時30分～20時、土①13時～14時30分 ②15時15分～16時45分

▶日数＝8～12回(1回あたり90分講義。週1回、同一曜日に実施)

▶受講料＝1万円(8回)、1万2,000円(9・10回)、1万5,000円(12回)

▶定員＝1科目あたり約40人

▶開講場所＝兵庫県民会館

▶開設科目

科目名	日程・回数
人をケアする心が紡ぐ社会の絆	9/ 7(火)～ 8回
観光都市神戸の文化・交流基盤	9/ 7(火)～12回
多文化都市神戸～多文化共生の光と影・隣人は外国人～	9/ 8(水)～12回
21世紀の宇宙～宇宙の謎はどこまで解けたか～	9/10(金)～12回
祭りの魅力再発見	9/10(金)～10回
どうなる高齢者保障	9/11(土)～ 8回
美術を背景(歴史・社会)から読む～東西の交流を軸に～	9/11(土)～10回
バイオテクノロジーと未来生活	10/2(土)～ 9回
中国文学を観る～文学から演劇へ	9/11(金)～12回

(2)オープンカレッジ

大学の施設を使用して、実習やゼミナールなど、参加・体験型の多彩なプログラムを提供します。

▶受講料＝2万円

▶定員＝1コースあたり約40人

▶開講場所＝各大学キャンパス

#### ▶開設コース

コース名	日程・回数
神戸大学* 心理テストを通じて知る「こころ」の不思議 ～自分の知らない意識と無意識	2010年 10/16(土)～ 5回
兵庫大学 ポスト団塊世代の新たな高齢者像 ～コミュニティづくりのリーダーとなるために	2011年 2/5(土)～ 5回

\*神戸大学コースは、定員に達したため、受付は終了いたしました。ご了承ください。

#### 5. 照会先

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構  
学術交流センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-2

人と防災未来センター 東館6階

TEL 078-262-5714 FAX 078-262-5122

http://www.hyogo-al.gr.jp/kouza/

## 兵庫県こころのケアセンター

### 平成22年度第1期「こころのケア」研修 の受講生募集

兵庫県こころのケアセンターでは、「こころのケア」に携わる保健・医療・福祉等の分野で活動されている方を対象に、各種課題への対処法等について学ぶ「専門研修」と、「こころのケア」に関する知識や理解を深める「基礎研修」を実施しています。

8月下旬から10月にかけて実施する研修の受講生を次のとおり募集します。

#### 1. 研修概要

区分	コース名	期間	定員	対象	受講料 (資料代等)
専門 研修	①悲嘆の理解と遺族への支援	9/8(水) 9(木) (2日間)	30人	医療・保健・福祉・心理臨床の分野で活動する者及び遺族支援に携わる者	2,500円
	②災害発生時の危機管理対策と被災者・救済者のこころのケア	9/28(火) 29(水) (2日間)	25人	自治体防災・危機管理・精神保健福祉関係等職員	3,000円
	③犯罪被害とこころのケア	10/14(木) 15(金) (2日間)	25人	保健・医療・福祉・教育・司法・警察・消防関係職員	3,000円
基礎 研修	④「こころのケア」の基礎	8/26(木) (1日間)	80人	保健・医療・福祉・教育・司法・警察・消防関係職員	700円

#### 2. 申し込み方法

- ・各コースとも先着順で受け付けます。受講申込書に必要事項を記入のうえ、郵送またはFAXで下記照会先までお送りください。
- ・受講申込書は本センターホームページよりダウンロードできます。

#### 3. 研修会場・照会先

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

兵庫県こころのケアセンター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目3-2

(阪神「春日野道」駅から南へ徒歩約8分)

TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017

http://www.j-hits.org/

## Hem21NEWS vol.22

平成22年7月発行



(公財)ひょうご震災記念  
21世紀研究機構

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

(人と防災未来センター)

http://www.hemri21.jp/

当機構は、以下の組織で構成しています。

#### ● 管理部

TEL 078-262-5580

FAX 078-262-5587

#### ● 研究調査本部

TEL 078-262-5570

FAX 078-262-5593

#### ● 人と防災未来センター

TEL 078-262-5050

FAX 078-262-5055

#### ● 学術交流センター

TEL 078-262-5713

FAX 078-262-5122

#### ● こころのケアセンター

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

TEL 078-200-3010

FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・ご感想を機構までお寄せください



企画・デザイン・編集・制作・新聞印刷・商業印刷・出版印刷・新聞広告・雑誌広告・SP・イベント・IT事業

小説、自伝、詩集など  
あなたが書きになった原稿を  
ご予算に応じた自費出版プランで  
ご提案いたします。  
また、各企業の記念誌等の  
企画・プロデュースも  
いたしております。  
どうぞお気軽にご相談ください。

株式会社 神戸新聞総合印刷

☎078-362-7180

本社/〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-5-7

http://www.kobepn-printing.co.jp/

当社の印刷センターはISO14001の認証を取得しています。

ISO14001



新聞印刷及び各種商業印刷

印刷物の企画プロデュースから編集・印刷まで、ニーズに合わせてトータルに手がけます。